

アンケート調査の方法

兵庫県立明石北高等学校

総合的な探究の時間・理数探究

下記のアンケートで何を聞きたい？

2021/06/21 yahoo!ニュース内アンケートより

東京五輪の観客上限をめぐり、大会組織委員会、東京都、政府、国際オリンピック委員会（IOC）、国際パラリンピック委員会（IPC）による5者協議が行われ、定員50%以内で最大1万人とすることで合意しました。あなたはこの方針をどう考えますか？

1. 妥当だと思う
2. 妥当だと思わない
3. どちらとも言えない／分からない

課題 1 主催者は何を調べるためにこのアンケートを作ったのでしょうか？

課題 2 このアンケートの問題点を教えて下さい。
また、改善するとしたらどうしますか？

アンケート作成の手順例

- 1 リサーチクエスチョンを明確にする
- 2 リサーチクエスチョンに関する論文検索を行う
- 3 測定する概念を決定する
- 4 分類のために必要なデータ（カテゴリデータ）を考える
- 5 的確な文章で質問項目をまとめる
- 6 選択肢のつくり方
- 7 アンケート用紙の構成要素
- 8 アンケートサンプル数の決め方
- 9 プレアンケートの実施（同級生など）

3 測定する概念を決定する

概念：物事の大まかな意味や内容 ⇔ リサーチクエスチョン

例えば、

- ・ コロナ禍の防疫の意識
- ・ スイーツの趣向
- ・ 高校生の学習に対する考え方
- ・ 高校生のソーシャルゲームの意識

※概念の中身を、その概念以外の言葉でかなり明確に指し示すこと。

「学習方法についての考え方」と「学習とは何のためにするのかについての考え方」では同じ言葉（概念「考え方」）でもその意味は大きく異なる。

4 分類のために必要なデータ(カテゴリデータ)を考える

例 「コロナ禍の防疫の意識」という概念を、以下の項目で分類することもできる

- (1) 学年：1学年、2学年、3学年
- (2) 性別：男性、女性
- (3) 所属している部活動：野球部、バスケットボール部、陸上部...

※ 仮説と関連させる「学年によって、コロナ禍の防疫の意識が異なる」

5 的確な文章で質問項目をまとめる

アンケート項目を的確な文章にするために

- (1) 具体的な表現を使う
- (2) 1つの質問文では、1つのことだけを尋ねる
- (3) 質問の前提を熟慮する
- (4) 専門用語に注意する
- (5) 誘導的な質問でないかに注意する

「**コロナ禍での防疫意識と対策**」の概念に関する、質問例の是非を一緒に検討してみましよう。

(1) 具体的な表現を使う

〈質問例 1〉 あなたは、新型コロナウイルス感染の防疫対策をよく行っていますか？

- ・ 防疫対策は何を指しているのか？
- ・ 「よく」とは何を指しているのか？ 頻度？ 時間？

(2) 1つの質問文では， 1つのことだけを尋ねる

〈質問例2〉 あなたは， 食事の前後で新型コロナウイルス感染に対しての
防疫対策を実施していますか？

- ・ 食事の前と後の両方を質問している
- ・ 毎食なのか 1日に1食でもしたらいいのか分からない

(3) 質問の前提を熟慮する

〈質問例3〉 あなたは、アルコール消毒の手荒れが気になって保湿効果のあるクリームをつかいますか？

- ・ 荒れることが前提であること
- ・ アルコール消毒とは関係なくクリームを使っている人に対する考慮ができていない
- ・ そもそも手が荒れても気にならない人もいる
- ・ 対処法は保湿クリームだけじゃないかも

(4)専門用語に注意

〈質問例 4〉 NSAIDsが新型コロナウイルス感染症の症状を悪化させると
いう話があります。あなたはどのように考えますか？

- ・ 専門用語はアンケート回答者に伝わらないことがある

(5) 誘導的な質問でないかに注意

〈質問例5〉新型コロナウイルスの世界的な流行にともない、感染予防対策として手洗いが注目され、実践されています。

手洗いは、手や指を介してヒトからヒトへ感染するような感染症の防止に大変重要です。

手や指に付着したウイルスや細菌が鼻や眼、口から体内に入ることによって感染症にかかります。

体内に入らないように手や指に付着したウイルスや細菌を“洗い流す”ことで感染防止につながります。

あなたはコロナウイルスに対し手洗いが重要だと考えますか？

- ・ 質問が誘導的にならないか注意をする

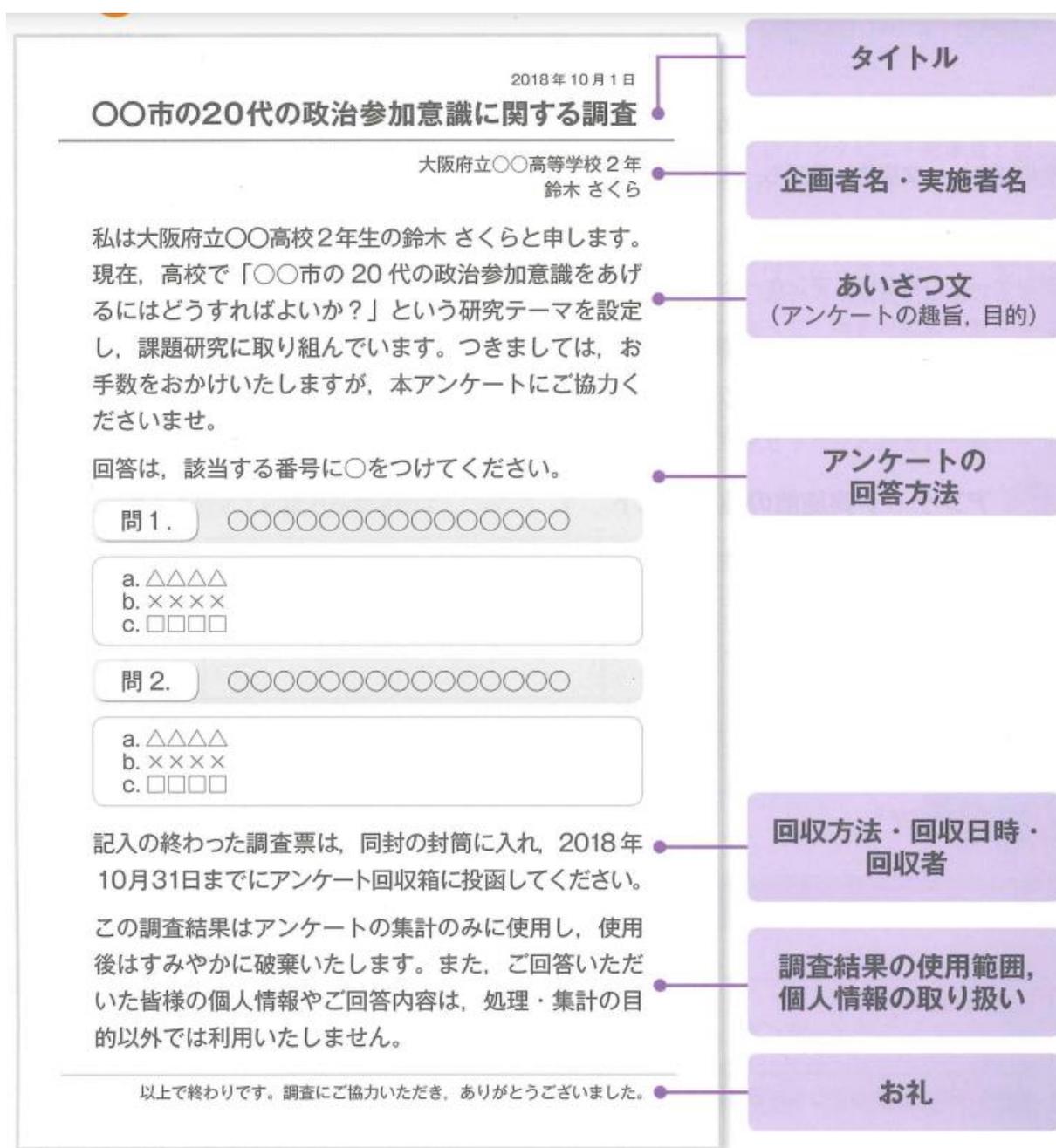
7 アンケート用紙の構成要素

- (1) 調査の名称・企画者・目的
- (2) 質問文と選択肢
- (3) 回収方法・個人情報取り扱い・お礼など

※注意事項

- ・ レイアウト
- ・ 文字の大きさ
- ・ 質問項目の並べ方
(一般的な質問→核心の質問)

回答者の立場からアンケートの作成を心がける



(課題研究メソッドStart Book p.82より)

8 アンケートサンプル数の決め方(1)

許容誤差...アンケート結果が**母集団**の平均値 (実態)
からずれている可能性を示す指標

アンケートサンプル数の決め方(2)

母集団	許容誤差		
	10%	5%	1%
100	50	80	99
500	81	218	476
1,000	88	278	906
10,000	96	370	4,900
100,000	96	383	8,763
1,000,000~	97	384	9,513

※許容誤差...結果が母集団の平均値（実態）からずれている可能性を示す指標

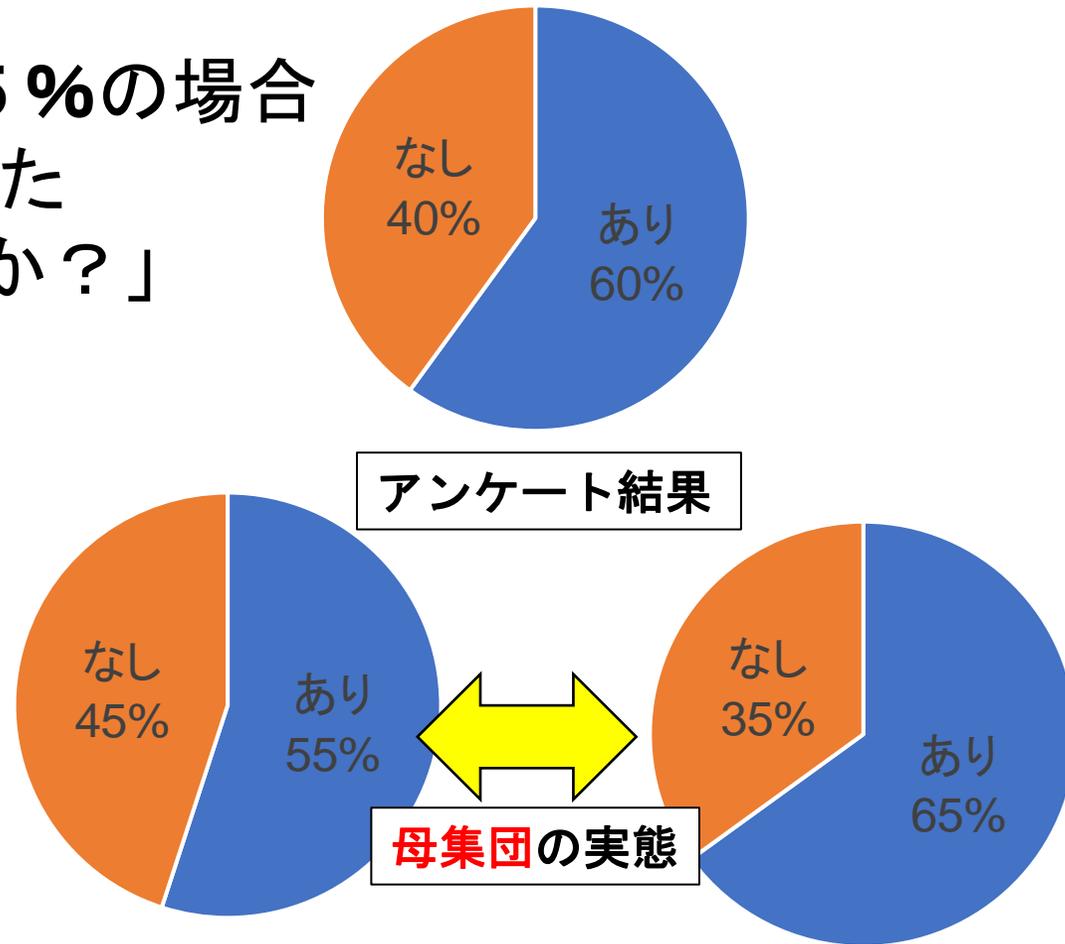
例：アンケート結果 「〇〇市に住む65%の高校生が海外に行ったことがある」

母集団の実態 「〇〇市に住む65±5%の高校生が海外に行ったことがある」

8 アンケートサンプル数の決め方(1)

許容誤差...アンケート結果が**母集団**の平均値（実態）からずれている可能性を示す指標

例：許容誤差が5%の場合
「海外に行ったことがあるか？」



9 プリアンケートの実施

- (1) アンケート用紙が完成したら、同級生に依頼してプレアンケートを実施すること
- (2) プリアンケートの終了後、各小問の意図を説明
→以下の観点でプレアンケート実施者にコメントをもらう
 - ①各小問の意図が正しく伝わっているか
 - ②誤字・脱字が無いか
 - ③その他、気づいたことがあれば
- (3) プリアンケート後、アンケート実施者はどのように分析をするのかを試行

参考文献

- ・ 林 兵馬 明石北高等学校 2022年度職員研修資料
- ・ 大谷 信介ほか 社会調査へのアプローチ 論理と方法 第2版, ミネルヴァ書房, 2010
- ・ 岡本 尚也ほか 課題研究メソッド2ndEdition, 啓林館, 2021